**【Entry：061】**

**題名：　私から始まる祖国統一**

**お名前：　　大島章江**

2005年の夏。

暑いお盆の時、明治、大正、昭和、平成を生き抜いた最愛の祖母が、98歳の長寿を全うして天に旅立った。その年の12月25日～29日、第三回祖国訪問ツアーがあった。「ワンコリア」を希望する旅一となっていた。平和統一総合創設者の文鮮明、韓鶴子総裁の多大なる愛によって、実施されたものだった。72歳の父と、10才の長男、8歳の長女と私と、4人の三代で参加した。母と6歳と４歳の弟は残念ながら留守番となった。準備されていた平和行進及び在日同胞祖国統一祈願際が38度線、臨津閣平和公園にて行われ参加した。雪も積もり寒い中ではあったが、透き通る青い空と澄んだ空気の中、おそろいの白糸の帽子とゼッケン、祖国統一の旗を持って平和なる祖国統一を願いながら行進した。新しい歴史を刻む一歩となったように感じた。父も初めてパスポートをとり、日本を越えて韓国の地を踏み、韓国の文化、歴史にふれ、韓国料理もとてもおいしく、韓国が好きになった。現地に行き、共に平和統一を願いながら行進し、祈りを捧げた事は忘れられない事である。20年の月日が過ぎ今回のプロジェクトに参加する中で、当時を振り返る事が出来た。父は、9年前に天に旅立った。長男は30歳となり家庭を持ち2人の子供の父となった。長女は28歳となり家庭を持ち、娘が生まれ母となった。20年の月日を振り返り、祖国統一、南北統一がまだ目に見える形で、成されていないが、20年の月日の中、一人一人の平和統一を願う切なる思いが、そろそろ満ち溢れるのではないかと感じている。私の家族を見ても天に召された者、新しい生命を誕生した者がいる平和を願う道が続いていることを思う。神様と先祖が共にあり、祖国統一を目指して、共に暮らせる幸せな世界が訪れるように次の一歩を踏み出して行こうと思う。